

日医生涯教育講座「救急の日」講演会

日時:平成30年9月8日(土)14:00~17:00

場所:岡山県医師会館三木記念ホール

開会挨拶 岡山県医師会 会長 松山 正春

講演Ⅰ「岡山県の防災対策について～南海トラフ地震に備えて～」14:05～14:30

講師:岡山県危機管理監 吉田 邦成 氏

過去の発生した災害や、南海トラフ地震の被害想定を示し、岡山県の災害リスクについて説明すると共にこうした事を踏まえ、岡山県の災害対策や災害発生時の県の体制等について講演する。

講演Ⅱ「救急医療施設における Advance Care Planning

～臓器提供施設の視点から～」 14:30～15:45

講師:岡山大学大学院医歯薬学総合研究科地域救急・災害医療学講座

講師 尾迫 貴章先生

救急の現場では、日常的に死と遭遇します。また懸命の治療にもかかわらず、脳死や植物状態に至る症例も多く経験します。このような現状において、岡山大学病院高度救命センターは、Quality of Death を意識した終末期医療の一環として臓器提供に取り組んでおります。患者・家族の『最後の声』を汲み取りグリーフケアの充実を図る、我々の取り組みを先生方に知っていただきたいと思っております。

講演Ⅲ「危機対応:Crisis Management について

～局所災害から広域災害まで～」 15:45～17:00

講師:防衛医科大学校 救急部 准教授 秋富 慎司先生

はじめに、、西日本豪雨で亡くなられた方に深くお悔やみ申し上げます。また、被害に遭われた方に心よりお見舞い申し上げます。この講演がこの痛ましい災害の後であることを、本当に残念に思っております。精一杯お伝えたいことをお話させていただきます。想定外、、よく耳にしていますが、本当に想定外なのでしょうか？

想定外だったから、仕方がなかった、、ではないと思っています。その説明と対応をお話させていただきます。

危機対応システム、と言われるとなぜか難しく感じてしまうかもしれませんが、基本的には普段誰しもが自然と行っている内容なのです。アメリカでの歴史は、1970年代のカルフォルニアの山火事案の時、集まったポンプ車のホースの口径が合わない、指揮命令系統が違ったための混乱などを経験し、軍隊式の指揮統制を導入したのが始まりです。現場では、

- ・一人の指揮者が多数の指揮を処理しきれない。
- ・多機関が集まったものも、命令系統も用語も違うために連携ができない。
- ・間違った情報が流れてくるが、処理しきれない。・情報連携の方法がばらばらで、情報のやりとりが出来ない。
- ・みんな一緒に共通の計画をたてなければならないのに策定する手順がない。
- ・誰が担当責任か分からずうやむやになっていく。・各組織で目標がばらばらで連携できない。

などの問題があるのは、ご存知の通りです。それらについて、実際の災害現場での経験などをいれて説明をしていきます。

閉会挨拶 岡山県医師会 副会長 大原 利憲

※日医生涯教育講座単位：2.5 単位

演題Ⅰ 12 地域医療 (0.5 単位) 演題Ⅱ 3 医療倫理：研究倫理と生命倫理 (1 単位) 演題Ⅲ 14 災害医療 (1 単位)

生涯教育チケット帳を持参お願いいたします。会員施設のコ・メディカルの方も奮ってご参加下さい。

講演Ⅰ、講演Ⅱ、講演Ⅲとも講話後、質疑応答を受けます。

※託児希望の方は岡山県医師会 HP より生涯教育⇒託児申込書をダウンロードをして8月31日までにFAXよりお申込をお願いします。FAX 086-251-6622